NEWS ニュース

＊この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。
国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336-0002 埼玉県浦和市北浦和5-6-36
Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

1999年度日本語能力試験

昨年12月５日（日）に、1999年度の日本語能力試験が、国際交流基金、㈶日本国際教育協会の共催で実施されました（台湾は㈶交流協会が実施）。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、習得した日本語の能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で16回目を迎えました。

今回は海外33の国・地域の75都市（バングラデシュ、ボリビアは現地の事情により本年度の実施見送り）、日本国内９都市で実施され、総計196,030人（昨年度比約28.4%増）の応募者がありました。

各級の応募者数については別表のとおりです。

	級別	1999年度応募者数（人）	1998年度応募者数（人）	伸び率前年度比
国外	１級	32,591	26,520	22.9%
	２級	43,866	32,229	36.1%
	３級	47,289	33,925	39.4%
	４級	34,116	27,075	26.0%
	小計	157,862	119,749	31.8%
国内	１級	23,416	19,413	20.6%
	２級	7,379	6,418	15.0%
	３級	4,832	4,443	8.8%
	４級	2,541	2,638	−3.7%
	小計	38,168	32,912	16.0%
合　計		196,030	152,661	28.4%

なお、2000年度の日本語能力試験は12月10日（日）に実施される予定です。

試験実施の詳細については、７月頃に下記までお問い合わせ下さい。

海外：
国際交流基金関西国際センター試験課
〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町
りんくうポート北３-14
TEL：+81-724-90-2603
FAX：+81-724-90-2803
E-Mail : jlptinfo@jpf.go.jp
URL : http : //www.iijnet.ne.jp/jpf/jlpt/contents/home.html

国内：
財団法人日本国際教育協会
事業部日本語・統一試験課
〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29
TEL：+81-３-5454-5215
FAX：+81-３-5454-5235

「日本語教育国別情報ホームページ」の開始について

日本語教育を実施している115の国・地域（1998年海外日本語教育機関調査による）について、それぞれの日本語教育事情をまとめた「日本語教育国別情報」を、2000年３月から日本語国際センターホームページ上で公開します。

（http : //www.jpf.go.jp/j/urawa）

内容は
・日本語教育の実施状況
・教科書
・教師会
・日本語教師派遣情報
・学習目的（機関調査結果）
・参考文献一覧
・その他（日本語教育略史、教育制度と外国語教育、ガイドライン・シラバス、評価・試験、教師）

となる予定です。（ただし、「その他」については主要国のみ。）

このホームページは、日本大使館・総領事館、国際協力事業団、国際交流基金の情報を、国際交流基金日本語国際センターがまとめたものです。ぜひご覧ください。

センター元研修生、誘拐され人質となるも無事に解放

昨年８月23日、キルギス共和国において、武装勢力による国際協力事業団の日本人技師拉致事件が発生しました。人質の中には、日本語国際センターの元研修生（92年度長期研修）で、通訳を務めていたオムルベク・ジャナケーエフさんも含まれていましたが、10月25日、４人の日本人とともに、無事に解放されました。

ジャナケーエフさんは、センターでの研修から帰国後、日本キルギス文化センター所長となり、キルギス語日本語辞書の編集を行うなど、両国の文化交流に力を注がれていました。ご無事を心よりお慶びいたします。

○ 編集部から ○

「外国語（日本語）教育というのは、基本的には外国語（日本語）を通じて行う教育という意味である。もっと厳密にいうと、外国語としての日本語（日本文化も含まれる）を教えることを通じて、人間を育てること、さらにいえば、外国語（日本語）の習得を通じて、自民族優越主義（ethnocentrism）や大国意識（chauvinism）、あるいは自民族劣等意識から脱却し、世界的な人間づくりをすることである。

日本語教育は単に日本語という言語を習得するだけでなく、それ以上の意義と価値をもっているものなのである。つまり、外国語教育の原点は、人間愛を育てることだといえる。外国の文化を学ぶことが、人間らしさを育てることに寄与するという事実にもっと光をあてるべきである。」（縫部義憲『日本語教育学入門』（創拓社）より）

時々、「なぜ日本語教育を世界中で行う必要があるのか」「自分はなぜ日本語教育関係の仕事をしているのか」と考えることがあります。

上の文章を読んで、その意義が分かったような気がしました。と同時に、自分の仕事の未熟ぶりを自省しました。

2000年代も、どうぞよろしくお願いいたします。　（情報交流課　田中　伸一）

＊編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

『日本語教育通信』　第36号
2000年１月発行

発行・編集　国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336-0002 埼玉県浦和市北浦和5-6-36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
（6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan）
TEL 048-834-1184　FAX 048-830-1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人　国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for Cultural Exchange)
© 2000 by The Japan Foundation

（表紙イラスト：村井宗二）